

# 廃バッテリー

## 市中6年ぶり70円割れ

### 輸出向け高値消える

廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の市中取引相場が続落している。一次問屋への持ち込み価格はキロ70円を下回り、約6年ぶりの安値に下がった。秋口まで残っていた高値買いする輸出業者が消え、需給も緩んで買い手市場の様相となり、扱筋からは「どこまで下がり続けるのか（集荷業者）」とまだまだ底値が見えない不安が台頭している。

### 買い手市場、底値見えず

鉛リサイクル原料の廃バッテリーだが、国内一次製錬メーカーが集荷強化のため高値を提示し、昨年夏から秋にかけて市中相場は過去最高値120円前後まで達していた。しか

し今年に入り国内メーカーの買い気が一服すると、1月には100円、5月連休明けに90円を下回っていた。

改正によって輸出ライセンス更新が事実上できなくなり、夏前から1年期限のライセンス切れが相次いだ。国内の一次製錬・二次精錬メーカーの調達も上向いてこなかったため、

荷余りが顕著になってきた8月には80円を割り込んだ。「9月まで地域によっては、ライセンス枠が残っている輸出業者の高値買い情報があった」（二次精錬メーカー）と言われていたが、今月に入り高値情報はほぼ消失。中旬には70

円前半まで下げ足が早まり、このほど60円台に続落したもようだ。市中取引の70円割れは、韓国向け輸出増加が始まった2012年以来的こと。国内の一次製錬・二次精錬メーカーは調達コストを引き下げたため、さらに買値を抑える構え。一方の集荷筋では、夏前の高値仕入れ玉の投げ売り先すら見つからない状況下で、さらなる相場続落

に頭を悩ませている。ライセンス切れとなった輸出業者の事業撤退も考えられ、「これで業者の淘汰が進むのでは」（集荷業者）ともみられている。